

4. 完全学校週5日制対応プログラムに関すること

(1) 5日制対応プログラムの工夫・改善・充実

保護者の理解のもと、子どもたちにとって参加しやすい条件のプログラムを提供するためには、ア.日常レベル（子どもたちの生活圏内の場所）での実施、イ.継続性のある取り組み、ウ.小中高生も参画できる内容、エ.親子で参加できる内容、オ.地域との連携等の工夫・改善を図っていくことが大切である。

① 日常レベル、継続的・長期的、小中高生参画、親子参加、地域の連携をキーワードにしたプログラム開発

プログラムの開発では、単なるイベント的なものでなく、継続的・長期的な体験活動を通して、「生きる力」につながる普段体験できない活動や豊かな人間性の育成に役立つ内容の活動が望ましい。その際、子どもたちだけで参加できる活動・親子で参加できる活動等の目的に応じた内容を工夫し、企画・運営についても、地域の有志・団体、企業・NPO、小中高生等と連携しながら、地域ぐるみでの取り組みが重要である。

② 指導者の育成・確保

教育活動の一環としての活動を考えたとき、子どもたちはもちろん保護者や地域からも信頼される指導者が必要とされる。特に子どもたちと接する際、子どもの発達段階や体力的・精神的な面を理解し指導に当たることが求められる。そのため、中・高・大学生を含めた地域のリーダー育成のための研修事業を充実させる。さらに、地域や団体に適切な情報を提供していくために、指導内容（プログラム）が分かり、実際に機能する人材バンクの整備が求められている。

(2) 休日に保護者がいない子どもや障害のある子どもへの支援

休日に保護者がいない子どもたちや障害のある子どもたち等が、事業やプログラムに参加しやすくなるための環境を整えたり、保護者の付き添いがなくても気軽に行き活動できる場の提供を図っていく必要がある。

① 障害のある子どもたちへの配慮

障害のある子どもたちのためには、様々なプログラムに参加し、多くの子どもたちと交流を深めることが大切である。障害の程度によって参加できない子どもたちについては、現在実施されている事例を参考にしながら、首長部局や社会福祉協議会・福祉ボランティアの方々や連携し、プログラムの開発を進めていく。

② 休日に保護者がいない子どもたちへの配慮

保護者が昼間家庭にいない子どもたちが利用する放課後児童クラブを土曜日にも開設するとともに、保護者の付き添いがなくても子どもたちだけで活動に参加できる児童館などの場を設置していく。今後、特に公民館での活動にはその役割が期待される。

(3) NPO・民間団体・企業との協力

社会貢献活動の一環として、地域の民間団体・企業等が実施している特性・専門性を生かした子どものための体験活動の場が数多く提供されるよう働きかけていく。そのためにも、関係する団体等が協力し合ってプログラム作成委員会などを設置し、諸団体や企業とのネットワークを形成していくことが求められる。

(4) 必要とされる情報の提供・相談

いつ、どこで、どんな活動の場があるのか等の情報が、子どもたちにも簡単に入手できる方法で提供されることが望まれる。その際、子どもを対象としたコーディネーターの養成も必要である。

① 体験活動ボランティア活動支援センター、子どもセンターの充実・活用

県や市町村における体験活動ボランティア活動支援センター、子どもセンターの機能である情報収集・提供、相談等を充実し、子どもたちの体験活動やボランティア活動を支援していく。そして、学校や子どもたち、活動の場を求める人たちのニーズに応えていく。

② 学校を通じての情報提供

各学校において、体験活動の連絡調整の窓口となる担当を明らかにし、身近な場所で開催される様々な活動の情報を随時子どもたちに提供し、参加を推奨する。また、コーディネーター役としては、教員の社会教育主事有資格者の活用を図っていくことが望まれる。